

10年後も、30年後も、さらにその先も。 ずっと地球で暮らそう

つなぐ、つながる、つなげる。

「ずっと地球で暮らそう」をコミュニケーションワードに、
2002年、COSMOエコ基金の支援活動はスタートしました。

森林や生態系を守る活動を進めながら、
同時に貧困などの根本的な問題や、地域が抱える社会課題の解決をめざす
取り組みが、国内外で成果を上げています。

これからは、会員の皆さまや
パートナー団体とのつながりを一層大切に育てながら、
基金の枠を超えて共創できる関係も強化。活動の輪をさらに広がっていきます。

人と地域、そして地球をつなぎ、
美しい森、清らかな川、豊かな海を未来へつなげるために。
多様なパートナーシップにより、気候変動などのさまざまな課題の解決をめざして、
「地球と人に配慮した脱炭素志向の開かれた地域循環社会」づくりに貢献します。



— COSMOエコ基金の想い。その実現をめざして — 中長期ビジョン

COSMOエコ基金は、多様なパートナーシップにより、気候変動問題に向き合い
「地球と人に配慮した脱炭素志向の開かれた地域循環社会」づくりに貢献しています。

3つの
戦略

社会課題解決への
新しい取り組み

コミュニケーションの
強化

多様な
パートナーシップの
構築

5つの
個別戦略

プログラム

コスモ
グループ内
連携

コミュニ
ケーション

会員

パートナー

COSMOエコ基金 20年間の歩み 20th

<p>地球温暖化問題をテーマに 「コスモ石油 エコカード基金」設立</p> <p>ソロモン諸島とパプアニューギニアで 「熱帯雨林保全」がスタート</p> <p>キリバス共和国で 「南太平洋諸国支援」が スタート</p> <p>宮城で「海を守るために木を植える 森は海の恋人」が スタート</p> <p>長野・宮城で 「C.W.ニコル・アフアの森と 東松島の森づくり」がスタート</p> <p>静岡で「世界遺産 富士山の森を守り 再生させよう」がスタート</p> <p>ソロモン諸島から叙勲受章 環境保全と持続可能な農業を 推進したことが評価されました。</p> <p>紺綬褒章を受章 熱帯雨林保全活動、植林活動、海岸林再生活動が 高く評価されました。</p> <p>中長期ビジョンを発表 森林保全、生態系保全に加え、次世代啓発、 再生可能エネルギーのプロジェクトを支援することを決定。</p>	<p>2002</p> <p>2003</p> <p>2004</p> <p>2008</p> <p>2009</p> <p>2010</p> <p>2011</p> <p>2012</p> <p>2014</p> <p>2016</p> <p>2018</p> <p>2019</p> <p>2021</p>	<p>グッドデザイン賞受賞 カードを通じた市民参加型の環境活動への取り組みが評価されました。</p> <p>5プロジェクトも支援</p> <p>わずか1年で会員数56,000名突破</p> <p>7プロジェクトも支援</p> <p>キリバス共和国政府より 栄誉を受ける マングローブの植林活動が認められ、 2008年の感謝状ほか、 2015年には勲章をいただきました。</p> <p>エコカード基金の活動テーマに 「生物多様性」が加わる</p> <p>15プロジェクトも支援</p> <p>会員さま向けのエコツアーを 山梨と埼玉でスタート</p> <p>エコカード基金が 10周年を迎える 「種まき塾の里親プロジェクト」を実施。 参加型の取り組みに1,352名が参加。</p> <p>エコツアーが 「みんなの参観日」に リニューアル 寄付金500円の使いみちを体験。</p> <p>畠山先生の わくわくトーク開催 エコツアーリニューアルと同時に、 会員感謝イベントがスタート。</p> <p>第28回地球環境大賞「奨励賞」受賞 企業としての受賞に、 エコカード基金の活動が貢献しました。</p> <p>活動報告書はWEB中心に</p>
--	---	---

名称とロゴマークが一新！

2022 コスモ石油エコカード基金は 「COSMOエコ基金」に！

コスモエネルギーグループでは、主力の石油事業のほか、再生可能エネルギー事業など、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを強化しています。そのなかで、未来に向けてより多くの方々とのつながりを活動を通じて実現していきたいという想いから、基金の名称を「COSMOエコ基金」に変更いたしました。今年は基金の設立から20周年という記念の年でもあります。皆さまのご協力のもと、これからも新たなチャレンジをまいりますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

ずっと地球で暮らそう



コスモの「C」とエコの「e」をイメージしています。
さらに「木」「山」「水」「大地」を表現するカラーを用いた
ほか、地球にやさしい雰囲気デザインしました。